

中東レポート

クリントン新政権と中東の展望

一九九二年一二月一〇日

一二月七日、ワシントンで第八次二国間交渉が開始された。が、米国の政権移行期であり、誰も進展を期待していない。〈今回は、ブッシュ政権へのさよならペーティのようなもので、誰もがクリントン政権の政策が明確になるまで（交渉を前に）すすめようとはしないだろう〉とまで言われている。

パレスチナ側は、PLO指導者会議で参加か否かの態度を決定しきれず、ペイルート（正確にはベイトメリー）での前線諸国外相会議における「参加継続」決議を受けて、「限定的な代表団」（四名）の参加とした。アラファト議長

は、〈パレスチナ側は「多くの政治的大衆的な信用を犠牲にして（交渉に臨んで）きた」が、イスラエル側の提案は「正当な解決の基本をなしていない。それは（パレスチナ人民の権利を）土地だけでなく人民に対するものに限定しようとして、被占領下の人民には影響しても離散のパレスチナ人には関係がなく、エルサレムの位置を除外しており、パレスチナ人の誰もが受け入れえない代物だ」と表現している。そして、アユラウイ女史は、「共催者、とりわけ米国のかの態度を決定しきれず、ペイルート（正確にはベイトメリー）での前線諸国外相会議における「参加継続」決議を受けて、「限定的な役割—それが交渉の場であれ、進展の条件、環境作りにおいてであれ—が必要で

第85号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL.(03)3291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費24000円

目次

クリントン新政権と中東の展望

1

資料

8

独立の呼びかけ

1

政治声明

1

四組織の共同声明

1

・ワシントンの不実の同盟者・イスラエル（抄）

1

・イスラエル軍、情報リーグで大騒ぎ

1

重要日誌（一九九二年一月一一日）

14

・バルフォア宣言記念日に際した一〇組織の

1

はそうした混沌をつくる要因となっている。帝国主義間の協調体制をもつてやつていこうとしているが、それ自体が米国の利益を第一とするあり方であり、「公正」を押し付けることを意味しており、実際には自らが混沌を増殖させていることにしかなっていない。

かつてのケネディの「平和部隊」を真似たような「民主主義部隊」を創ることを民主党綱領はうたっているが、クリントン政権が米国流の「公正さ」や「民主主義」を押し付けようとしている声がより大規模に広まることになる。帝國主義間では矛盾を拡大しつつ一定の「協調関係」が成立しても、帝国主義的な「民主主義」や「公正さ」を押し付けられ、その矛盾のはけ口とされる第三世界の人民はけつしてそれを許容しはしない。

二 米国の政策と中東

「治」という名目で実質的に抹消してしまおうとするもので、中心問題であるペレスチナ問題は「白油国をほぼその手中にし、中東和平会議でアラブ内の分歧、米国寄りへの流れを不可逆的なものにした」ということを前提にしている。

だが、湾岸戦争後のクウェートでの利権のほぼ独占的な確保は帝国主義間の矛盾を作りだしているし、イスラエルとの戦略的な同盟関係の維持の下でアラブ諸国とイスラエルとの関係の改善をとる方針は、いかに反動的なアラブの国といえど、いまだ躊躇せざるをえないものを残している。とりわけ、エルサレム問題ではすべてのモスlemsを敵に回しかねない。いかにアラブ内に自国中心の傾向が拡大し、アラブ首脳会議も開けず、湾岸諸国協力機構さえもおかしくなり、アラブ・ボイコットは形骸化し、その全面解除も時間の問題などなどという状況にあるとはいえ、たとえばイラクに対してはクルドやシーア派への保護という名目で同国を三分解しかねない措置を導入するのに、トルコのクルド人民への弾圧に対してもまったくの放置状態というあり方にはアラブ人民の、そして全世界の人民の不満、批判の声は根強いものとしてある。米国の示す「公正さ」は、国際的なそれとはまったく無縁の、米国の利益を第一としたものである。

六月のイスラエルの選挙でラビンが勝利し、その和平推進の姿勢が喧伝された。あたかも入植活動が停止したかのように。しかし、実際には入植活動は継続され、アラブの町村を回避したハイウェイ計画は進行している。一月二二日にはその計画の一部である第一号トンネルが完成した。そうしたことにも示されるように、ラビン政権はパレスチナの併合に向けて、その策動を着々と進行させている。ブッシュは、そうした事実を知りつつ、かつ、入植に安全保障上のものか否かの区別はないとしてきたにもかかわらず、一〇〇億ドルの信用保証に踏み切つたのであり、クリントンはさらに、信用保証に入植用に使わないといったような条件を付けることを不要としている。これはクリントンがイスラエル寄りといわれる要因の一つであり、かつクリントンの言う「公正さ」の一例でもある。パレスチナ側がブッシュ政権の介入を強く要望しているのはそうしたクリントンの姿勢への布石を今のうちに打つておきたいからである。

インテイフアーダの五周年に際して、イスラエルの人権運動が九二年の弾圧実状を公表した。(ラビンになつてからもパレスチナ人の条件はなんら改善されはおらず、逆に九二年の死者は対前年比二〇%増加し、五年間での軍による死者の合計は一〇六人になつた)といふ。あたかも平和の使者のごとくに喧伝されたのと

一 「新世界秩序」にかけたブッシュの敗北とクリントンの登場

湾岸戦争、ソ連の崩壊、中東和平会議そして人質問題の解決といったなかで、一見ブッシュの「新世界秩序」はバラ色であるかに見えたが、東京でのブッシュ自身の倒壊は、けつしてそんな甘いものではないことを、まさに身をもつて示して見せた。

アメリカ帝国主義の論理、価値観が世界に押し付けるに値しないことは、ロスアンジェルスの暴動とそれに対して湾岸戦争の論理で対処したブッシュ政権の対応のあり方が証明した。「公正なきところに正義はない」と米市民が口々に叫ぶ暴動の本質的な問題を指弾した。世界最大の債務国と化した米国は、いろんな面でむしばまれ、「新世界秩序」を世界に押し付けるどころではなかったというのが実状である。内政重視、米国経済の回復をもって、世界的なリーダーシップの確立を掲げたクリントンが勝利したのは理の当然とも言えようし、矛盾、混沌の一例が政権交替として現われたとも言える。

しかし、「米国は世界最強の軍事大国であり、今後もそうでなければならない」としたうえで、「世界における米国の経済的なリーダーシップを回復することを国家安全保障の中心的な要素に」し、そのためには「貿易の拡大に努力するとともに、世界貿易が公正に行われるよう主張

しなければならない。政府は輸出を増進し、産物や他の製品の貿易を拡大し、わが国的主要な競争者に主要な製品とサービス部門の市場を開放させ、相互参入を実現するなど、米国の利益を維持するためには努力しなければならない。そのために、政府は最も重要な問題に對して当國の貿易上の目的遂行手段を行使する新たな極限を持たなければならぬ」と、九二年七月掲げられた民主党綱領で述べているように、歐州帝国主義や日本帝国主義、さらには他の諸国に対して米国製品のための市場開放を強要することもって、米国経済の回復を計らうといふものである。自國中心のあり方を促進し、よりいっこうの矛盾と混沌を創り出す方向を「公正な貿易」と言いくるめているにすぎない。

すでにブッシュは、大統領選敗北後ただちにECに対し、経済制裁をちらつかせて、農業交渉を「妥結」させた。これに對して、EC内最大の農業生産国である仏が反発している。そして、それは九二年に華々しく誕生する予定だったECがマーストリヒト条約の批准をめぐるて端を発した通貨危機と内部矛盾の噴出に、さらにもうひとつ新たな矛盾を付け加えることとなつて現われている。

また、民主党内からは、かの悪名高い「スープー三〇一条」を日本に対し云々する声が举がっている。「公正な貿易」の中心的なターゲットが、対米貿易黒字額を更新し続ける日本に当てられていることは疑いようもなく、クリントン政権になればさらなる矛盾の噴出は避けが

たいこととなる。リビア制裁、イラク南部への飛行禁止空域の設定、ソマリアへの派兵などでは帝国主義諸国は足並みを揃えているが、湾岸戦争後のクウェートの利権を米国がほぼ独占したことと示されるように、すべてが強い米国の確立のために利用されるだけという状況では協調にもビビが入ろうというものである。一月末に中東を訪問したミッテランは、米国主導の中東和平のあり方に対して「歐州の関わりの強化」を強調したが、米国との矛盾が経済問題に限らず政治的な面でも存在していることを示しており、今後それはさらに大きくなっていくであろう。

ソ連・東欧の社会主義圏の崩壊が、大ロシア主義を筆頭として、さまざま民族主義の台頭を生み出し、混乱を創出している。現在的には、その最たるものは旧ユーゴ内の問題であるが、冷戦後の世界はけつして米国や西側の想い描いていた「民主主義の勝利」などといったものでなかつた。それは、ドイツを中心としたネオナチの台頭、他方ではリトアニアでの旧共産党勢力の政権樹立やロシアでの旧共産党勢力によるエリツィンへの足枷などに示されている。中央アジアの諸国のイスラム諸国会議への参加も帝国主義側にとってはけつして好ましいことではない。

第三世界においても、冷戦構造時のパワー・バランスのなかで、おたがいに支えあつていたが、各々が自国の利害を追求する傾向が強まり、それが帝国主義の利害、思惑と結びついて、い

闘争、個別のテロへと変質したと言いくるめようとしている。何度となくそうした論理の破綻を突き付けられつつ、それを繰り返すのは、パレスチナ人民内部に矛盾を生じさせるためである。インティファーダの五周年＝六年目への突入を直前にしたガザでのイスラエル軍のパトロールへの武装襲撃に対しても、自らの動搖を隠す目的もあって、そうしたことを探り返している。その後のイスラエル軍の蛮行に対する人民の決起とそれへの弾圧などなかつたかのように。

これは言い換えれば、人民の統一した力を敵が最も恐れているということである。だからこそ、個別の組織を狙い射ちした弾圧を展開しているのであり、その中心的なターゲットが現在的には反対派の一〇組織となっている。交渉を支持する側と反対する側とに分断しようとしているのは明確である。だが、人民の側は、獄中の闘いとそれへの連帯の闘いの展開が証明したように、あるいは南部での闘いとそれと呼応する闘いが証明してきたように、国際的な正当性に基盤をもつた闘いを、そしてなによりも人民の圧倒的な支援をもつた闘いを持久的に展開し、敵をして占領を正当化することを許さず、交渉のなかでの敵の論理、目的を許すことなく、逆に破綻へと追い詰めている。

クリントンの政策は米国の利益第一の展開をするであろうし、それゆえに帝国主義間の矛盾を拡大するであろう。かつてレーガンは反共反ソを牽引力に強いアメリカの再構築を計った。クリントン政権は中国や朝鮮、キューバを、あるいは反テロなどを帝国主義間の協調体制の要に据えるであろうが、最大の重点を米国経済の強化、そのための「公正な貿易」に置いているからである。一方では欧州の統合を弱いものにつつ、自らはNAFTAを強固な排外的なものとして構築していくとするであろう。

欧州との農業交渉がフランスなどの反発を作り出している。そして、そうした矛盾はいろいろな面で出てくるであろう。ミッテランのイスラエル、ヨルダン訪問時の発言に示されるように、ペレスチナ人民の権利や中東と欧州との結びつきの強化という指向は、米国主導の和平會議への批判としてあることもそれは示されている。

国連そのものが米国の論理を追認する場にしかなっていない現状ではあるが、これまでの国連決議をすべて米国の都合にあわせて修正したり、反古にしたり、勝手な解釈の下においてたりするわけにはいかないし、なによりも人民がそれを許さない。

反共反ソの世界戦略の一環として、アメリカが成立してきた。それが、国際的な正当性を無視した、イスラエルのアラブ領土の占領の正当化、継続を支えてきた。湾岸戦争とソ連・東欧

「正義の使者」面を続けることができなくなつた。と同時に、アラブ内の分歧が明確になり、パワー・バランスの上に反米・非米政策を続けることも困難になつた。そうしたことから、中東和平会議へと進めたのであるが、逆に国際的な正当性を無視したあり方がより鮮明になることもなつてゐる。

クリントンの政策は米国の利益第一の展開をするであろうし、それゆえに帝国主義間の矛盾を拡大するであろう。かつてレーガンは反共反ソを牽引力に強いアメリカの再構築を計った。クリントン政権は中国や朝鮮、キューバを、あるいは反テロなどを帝国主義間の協調体制の要に据えるであろうが、最大の重点を米国経済の強化、そのための「公正な貿易」に置いているからである。一方では欧州の統合を弱いものにつつ、自らはNAFTAを強固な排外的なものとして構築していくとするであろう。

欧州との農業交渉がフランスなどの反発を作り出している。そして、そうした矛盾はいろいろな面で出てくるであろう。ミッテランのイスラエル、ヨルダン訪問時の発言に示されるように、ペレスチナ人民の権利や中東と欧州との結びつきの強化という指向は、米国主導の和平會議への批判としてあることもそれは示されている。

国連そのものが米国の論理を追認する場にしかなっていない現状ではあるが、これまでの国連決議をすべて米国の都合にあわせて修正したり、反古にしたり、勝手な解釈の下においてたりするわけにはいかないし、なによりも人民がそれを許さない。

反共反ソの世界戦略の一環として、アメリカが成立してきた。それが、国際的な正当性を無視した、イスラエルのアラブ領土の占領の正当化、継続を支えてきた。湾岸戦争とソ連・東欧

993年1月31日 第85号 月刊 由東レポート

イスラエル軍は、八二年の二の舞になることを避け、二月の緊張時と同様、力の誇示をもって自己満足的に引き上げたかに見えた。だが、実はナスマラーラー師の暗殺というテロ行動を策謀していたこと、しかしこの時点ではすでにそわも虚しいものとなっていたことが明らかになつた。つまり、ナスマラーラー師の暗殺計画とその破綻の露呈である（資料参照）。イスラエル当局はこの報道問題で一二月一日、マイアミ・ヘラルドとガーディアンの二人の特派員に対して軍事機密の漏洩という罪名で記者証の剥脱、他に四人に対して戒告処分とした。資料に述べているように軍内部のみにくい争いから意図的に情報が漏られたにもかかわらず、問題を特派員の責任にしてふたをしようというのである。

なにか問題が発生するたびに、パレスチナやレバノンのテロリストのせいにし、問題の本質を誤魔化してしまうのと同じ手口を用いて、「解

またこの計画は敵がアラブ人内部の矛盾とみせようとしたことにも示されるように、ペレスチナ人民に対しても分断と内部の対立を不斷に画策しているであろうことを証明することになっている。シャマス＝レバノン交渉団長がイスラエル側は、問題をハズバラードイスラエルの問題であるのかとく矮小化していくが、イスラエルのわが国の領土の占領こそが本的な問題であり、その本質をねじ曲げていると非難したが、対テロで自らの国家テロを正当化し、あるいは人民全体に被害を加えておきながら、「テロリスト」のみを対象にした戦闘ででもあるかのように言い繕うことになつていては、言うまでのないことである。

「イスラエルの安全」を口実にしたこうしてあり方の正当化は、国際法の無視、アラブ諸国人民の安全をふみにじつてもなんとも思わないあり方、ペレスチナ、レバノンなどの人民の生命を大量に奪い、多大な財産を破壊しつつ、地

南部のレジスタンスは占領からの解放を求める人民の抵抗権の行使としてある。ラビンは、アラブ諸国との和平を求め、ペレスチナ人民の行政権力を承認するかのごとき発言を繰り返す。一二月七日にも、サンデー・タイムズ紙とのインタビューで、「ペレスチナ側は、暫定的な合意が彼らが住んでいる領域を制圧していくいかなる国も提案したことのないものであることを理解すべきである」と言つたうえで、それは「彼らがある種のペレスチナ（国）と感じるものを彼らのものとしえる」内容なのだ、などと強弁している。が、そのインタビューのなかでも、ペレスチナ人を被占領下に在するものと離散のパレスチナ人に区別することを強調しているし、その提案の中身たるや在外や被占領下の人民から「占領の合法化」と非難されている代物でしかない。

敵の側は、インティファーダの消滅、死滅を何度となく宣伝し、あるいは大衆的な闘いから武装

人死三人負傷と、う波害を出

決一を計つものである

ナスラーラー師が同一四日に、「イスラエル軍の増強は「われわれへのこけおどし」であり、だからこそ報道陣に武力の誇示をしているのである。自制と政治的な現実から被占領下のペレスチナ領内に多くのロケットを射ちこむことは許されないが、報復としての攻撃はやる。政府には敵のプロパガンダに踊らされないように申

だが、今年に限つても、ムサウイ師の暗殺（この関連で、八九年のオベイド師の誘拐が実はムサウイ師を狙つたものだつたことが暴露された）、前述のアラブ諸国の一核開発施設（爆破計画など、テロ行為や計画が明るみにでた）。四年以来、あるいはそれ以前をも含め、数限りないほどのテロ行為がイスラエルによつて繰り返されてきたが、和平を標榜するラビンにおいても、シャミールと同様にそれを解決の手段としていることを、このことは暴露した。

また、この計画は、敵がアラブ人内部の矛盾とみせようとしたことにも示されるように、パレスチナ人民に対するもの分断と内部の対立などを

方ではユダヤ人が攻撃されたと大騒ぎするあり方、などなどとなって表わされている。自国でも売れない商品を、他国に無理やりに押し付けることを「公正な貿易」といいくるめ、あるいは自国民が被害を受けたといって他国を攻撃することを正当化するアメリカ帝国主義のあり方と瓜二つである。

南部のレジスタンスは占領からの解放を求める人民の抵抗権の行使としてある。ラビンは、アラブ諸国との和平を求め、パレスチナ人民の行政権力を承認するかのごとき発言を繰り返す。一二月七日にも、サンデー・タイムズ紙とのインタビューで、「パレスチナ側は、暫定的な合意が彼らが住んでいる領域を制圧しているいかなる国も提案したことのないものであることを理解すべきである」と言つたうえで、それは「彼らがある種のパレスチナ（国）と感じるものを彼らのものとしえる」内容なのだ、などと強弁している。が、そのインタビューのなかでも、パレスチナ人を被占領下に在するものと離散のパレスチナ人とに区別することを強調しているし、その提案の中身たるや在外や被占領下の人民から「占領の合法化」と非難されている代物でしかない。

敵の側は、インティファーダの消滅、死滅を何度もなく宣伝し、あるいは大衆的な闘いから武装度ともなつていている。

米国のあり方が帝国主義間の協調体制に矛盾を増大させているように、敵のあり方が、逆に、国連決議に基づいた問題の正当な解決を求める方向を作り出すであろうし、アラブ人民やモスレムの一体性を再度作り出す契機をもたらすことになる。

パレスチナの指導者たちは、異口同音に、「インティファーダは占領の終結という目的が実現し、パレスチナ人の建国の権利が実現するまで、すなわち勝利まで、エルサレムの解放まで統一」と宣言している。その闘いは長く、持久的なものであることをだれもが認識している。そしてそれは、パレスチナ人民の問題であるだけではなく、アラブの、全世界の人民の共通の問題として明確になっていくであろう。

人民の統一した、持続的な闘い（もちろん交渉も含めた）は、逆に敵の内部に分断をもたらし、その馬脚を現わさせる。クリントンの登場と帝国主義間の矛盾や敵のテロ計画の露呈はそうした好例である。一月に日本を訪問したツェメル女史は、イスラエルのパレスチナ人に対する人権無視のあり方を非難し、ユダヤ人とパレスチナ人の平和的な共存を模索し、それが不可能な場合はユダヤ人が立ち去るべきであるとまで言い切った。また、一二月九日のヘラルド・トリビューン紙は、イスラエル内で「インティファーダはわれわれを夢から覚ませた」というユダヤ人の声を伝えていたが、人民の闘いが出、次第に大きくなっている。南ア白人社会

襲撃、車の焼き打ち、住宅破壊を非難する。

5、カイロ地震で被災したエジプト人民にお見舞いと連帯を表明するとともに、アラブ連盟が必要な援助措置をとるよう、呼びかける。

6、民族的團結の強化、占領・入植への抵抗にすべてを注ぐことの必要を確認し、あらゆる形態の内部抗争を非難し、パレスチナ大衆のかかる抗争への拒否を確認する。民族的、イスラム的全勢力がかかる抗争には断固とした立場を取り、民族的対話に依拠すること、現場のさまざまの民族勢力の参加をもって、抗争・紛争を早急に終結させるよう呼びかける。また、民主主義を深化させ、大衆を敬い、大衆的民族的團結に全力を尽くすよう、呼びかける。

7、オリーブ収穫期に際し、農民支援のボランティア活動を組織するよう、呼びかける。

8、ラマラ市のルマ紙工場に放火した者を非難する。かかる行為は、民族の生産施設、われらが諸施設の保安、占領に対する人民の團結を破壊せんと狙う占領者どもに奉仕するものである。

9、占領軍によるエレツ検問所での発砲で数十人の労働者を負傷させた事件＝ガザ労働者への襲撃を非難し、同検問所での日々の抑圧的あるいは抗議し拒否した労働者たちの闘いにあいさつを送る。また、国際諸機関、人道諸機関に対し、治安を口実に行われたかかる行為を非難するよう、呼びかける。

（U.N.Lは以下の諸活動を呼びかける）

1、一月二日、バルフオア宣言記念日。際だつた闘いの日。人民の権利堅持と矮小な自治へ

米国のあり方が帝国主義間の協調体制に矛盾を増大させているように、敵のあり方が、逆に、国連決議に基づいた問題の正当な解決を求める方向を作り出すであろうし、アラブ人民やモスレムの一体性を再度作り出す契機をもたらすことになる。

パレスチナの指導者たちは、異口同音に、「インティファーダは占領の終結という目的が実現し、パレスチナ人の建国の権利が実現するまで、すなわち勝利まで、エルサレムの解放まで統一」と宣言している。その闘いは長く、持久的なものであることをだれもが認識している。そしてそれは、パレスチナ人民の問題であるだけなく、アラブの、全世界の人民の共通の問題として明確になっていくであろう。

人民の統一した、持続的な闘い（もちろん交渉も含めた）は、逆に敵の内部に分断をもたらし、その馬脚を現わさせる。クリントンの登場と帝国主義間の矛盾や敵のテロ計画の露呈はそうした好例である。一月に日本を訪問したツェメル女史は、イスラエルのパレスチナ人に対する人権無視のあり方を非難し、ユダヤ人とパレスチナ人の平和的な共存を模索し、それが不可能な場合はユダヤ人が立ち去るべきであるとまで言い切った。また、一二月九日のヘラルド・トリビューン紙は、イスラエル内で「インティファーダはわれわれを夢から覚ませた」というユダヤ人の声を伝えていたが、人民の闘いが出、次第に大きくなっている。南ア白人社会

内部からアパルトヘイトに反対する声が大きくなったようになつた。

一月九日は、米国の繁栄を追求せんとするクリントン政権と他の帝国主義との矛盾に加えて、真の公正を求める全世界の人民との矛盾が拡大し、噴出する過程への歴史的な一步を記すことになる。

内部からアパルトヘイトに反対する声が大きくなつたようになつた。

一月九日は、米国の繁栄を追求せんとするクリントン政権と他の帝国主義との矛盾に加えて、真の公正を求める全世界の人民との矛盾が拡大し、噴出する過程への歴史的な一步を記すことになる。

独立の呼びかけ

民族統一指導部（U.N.L）－パレスチナ国への呼びかけ、第八九号

（われらが人民大衆へ）

自由と独立の闘いを英雄的に闘い、ファシスト・シオニストどもから独立と生活を奪い返すまで、巨大なインティファーダを発展させていくとの固い決意をもつたわれらが人民の最も輝かしい闘いのなか、殉難受傷、投獄をも厭わぬ諸君に、最大級のあいさつを送る。投石と火炎びんの英雄たち、南部レバノンの武装闘争、獄中者との連帯をもつて、ファシストの計算いつさいを打ち崩し、ファシスト軍部中枢にわれらが人民の偉大さと巨大な力を認知させ、かつ、ファシスト＝ラビンのいかなる威圧にも屈する事なく、正当な権利を奪回するとの決意を知らしめた人々に、最大級のあいさつを送る。

一月の半ば、エルサレムを首都とした独立

自決・パレスチナ独立国家建国のわれらが正當な権利を再確認しよう。広汎な大衆運動員と武装闘争の拡大の機会とし、矮小な自治の拒否と真の独立達成への決意を表明する機会としよ。

（U.N.Lは、以下を確認する）

- 1、獄中者運動の殉教者H・オベイダットをはじめ、最近の英雄的闘いのなかで殉じた人々全員に最大級のあいさつを送り、負傷者には、あいさつと自由と独立の大道における任務を担うための早急な回復を期待する。
- 2、英雄的な闘いを通して基本的人権の一部を奪回したわれらが勇敢な獄中者にあいさつを送るとともに、獄中ハンスト終結にあたつて調印された合意事項の一部の実施をシオニズム監獄当局が遅滞させていることを非難する。また、連帯と多大な支援を与えたわれらが大衆と戦士たち、および内外の諸機関、人権擁護活動家たちに、あいさつを送る。
- 3、殉教者の追悼を、殉教の地での一日ストへと短縮するようとの従前の指示を再確認し、攻撃部隊には、その遵守を呼びかける。
- 4、占領軍に守られた入植ギヤングどもによるビル、ヘブロンの両市での市民財産に対する

バルフオア宣言記念日に際した一〇組織の政治声明

の拒否を表明し、商店は午後二時に閉店。

2、一月九日、インティファーダ六〇カ月目突入のゼネスト。

3、一月一二日～一七日、独立四周年を祝う特別の期間。民族的闘争と大衆的祝典の展開。パレスチナ旗を掲げ、壁にはスローガンを。

4、一月一五日、パレスチナ国独立を祝い、有給休日とする。

5、一月二〇日、居住地にかかわらず、われらが人民の唯一正当な代表＝PLOへの結集の日。行進の組織と民族宣言をもつて、われらが人民の團結を誇示せよ。

6、一月二十四日、入植と土地收用の継続に対するゼネストの日。

7、一月八日、一四日、一五日、一六日は商店の終日営業日。

U.N.L、パレスチナ国

九二年一月一日

年、パレスチナ人民の権利を代償としたシオニズム搾取国家の樹立を経て、かつ、今もつづく一連の流れとして形成されている。

パレスチナ人民の犠牲の上に、武力によつて誕生したシオニズム搾取国家は、米国の巨大な援助を吸いあげつけ、一連の戦争を通じ、アラブ領土を次々と占領し、米政権の財政支援を受けた世界各地からの移民の流入を開拓しつづけてきた。

入植と抹殺のあらゆる計画に対するわれらが人民の抵抗の決意は決して挫けることなく、闘争を続け、パレスチナ武装革命を宣し、解放戦争を開始させた。パレスチナ、アラブ、イスラムの大衆が革命に参加し、重要な民族的成果としてPLOが登場した。

だがその「指導部」は、今われらが人民の长期にわたる闘争を押し流そうとし、米国指導下の敵シオニストの交渉に巻きこまれ、敵に譲歩を重ね、一部アラブ政権にキヤンプ・デービッド路線の全アラブ地域での貫徹とパレスチナ問題の抹消への口実を与えていた。

われらが人民の命運と民族的大義とを脅かす深刻な危機は、われらが人民のアイデンティティと民族権利をなげうつてPLO「指導部」が応じた自治陰謀のなかに、端的に示されてゐる。これは、アラブ、イスラム世界に、シオニズム運動の「大イスラエル」の夢を実現させる橋となりかねない。七次交渉前半部の最後に、ヨルダン＝パレスチナ交渉団もその一部だ―とイスラエルの間で発表された予備合意は、ヨル

背信的過程を繼續するという政策は確実にわれらが人民の大義と成果を破壊する。それゆえ、今一度、パレスチナ交渉団に進行中の交渉から即時撤収を訴える。そして、ヨルダン＝イスラエル合意を暴露し、散財、正常化、再定住の危険への道を閉じ、行政的自治策動を葬り去り、民族的合意による計画を基本とする民族的團結と全民族的対話への復帰を呼びかける。さらに、交渉ならばにそこで進められ、われらがパレスチナ人民の民族的将来、民族的決定を損うことになる諸計画についての、領内外を通した包括的国民投票を改めて呼びかける。七次交渉の結果は、それがいつそう重要であることを示している。

が民族的闘争が達成したいつさいのものを危険に曝し、破壊しかねない段階にまで至っている。ワシントンの第七次交渉を通じて、交渉団は行政的自治計画の細部に関して討議すること、とりわけ、イスラエルの被占領地からの撤退約束もないまま作業委員会をもつことを受諾した。加えて、PLOの有力指導者たちは、ヨルダン－イスラエル合意の危険性に関して沈黙を守り、こうした合意段階に至っているにもかかわ

の仲介にしやしやり出している。
この二週間に示されたこうした妥協は、PLO 中央評議会（PCC）が採択した決定ならびに一月五日のパレスチナ指導者会議決定に反したものである。ということは、PLO の公的指導機関で決定したことと交渉のテーブルでなされていくこととはまったく別のものであり、こうした会議が単にわれらが人民・大衆に対して情報操作するものでしかないことを証明して いる。

ツト直義

的自治策謀への方途を拓くべく、ラビン政権との仲介にしやしやり出でている。

PLO有力指導者の要求もしくは合意に沿つて、多国間交渉・難民部会の開催国となつてもよいとのチュニジア政府の声明は、イスラエルとの国交正常化の実践的開始に向けた危険な云々唆である。この欺瞞的声明と対をなすように、チュニスのPLO有力指導者らは、多国間交渉に関するラビンの三条件を受けいれた。三条件への応答とは、パリで最近開かれた経済発展部会のパレスチナ交渉団長の密かな更迭だった。

行する固い決意をも新たにする。

パレスチナ解放人民戦線（PFLP）

パレスチナ解放民主戦線（DFLP）

人民闘争戦線（PSF）

パレスチナ解放戦線（PLF）

らす ミルタンとの合同代表団という形を継続することで、それを隠すことをしている。また

ヤンプ・デービッド協定同様の二国間協定の開始と言える。かかる合意のもつ危険は、ヨルダンの枠にとどまらず、パレスチナ、アラブ、モルディブにまで及ぶものであり、われらが人民の権利を代償とした、抹消・拡張・国交正常化の諸計画にいつそう扉を開くものである。

これと同様、PLO「指導部」に励まされたチュニジア政府が、多国間交渉・難民部会の開催國とならんとしている。一〇組織は、貪欲な敵シオニストがアラブの門戸を一つずつ開けていくことを狙つた、正常化政策を非難し、かかる政策がパレスチナ問題ばかりか、アラブ民族全体に破局をもたらすと警告する。

われらは、アラブ、イスラム諸国の、とりわけヨルダンとチュニジアの大衆諸勢力に、かかる破滅的政策と対決し、また合意とそれがパレスチナ・ヨルダン両人民、アラブ、イスラム諸国民に与える破壊的結果については、ヨルダン政権に責任があるとみなすよう、呼びかける。

PFLP、DFLP、PSSF、PLFは本日（一一月二日）朝、指導者会議を開き、第七次ワシントン交渉の前半期にもたらされた危険な結果について討議した。

今次交渉の前半部の最後に宣言されたこの合意は、議題手続きの合意などではなく、ヨルダント代表団長と米国務次官補とが宣言したように、両者間の交渉の内実を決定する実質上の合意である。合意の意味することは、イスラエルの全面撤退の否定であり、英信託統治当時の国境線をヨルダン—イスラエル間国境として承認するものである。加えて、難民・移民問題を細分し、アラブ各国とイスラエルとの間の問題へと転化するものである。これは国際諸決議と相対極をなし、再定住一代替郷土案への扉を開く

ものである。さらに、行政的自治の権威を限定する「機能的分割」を默認し、パレスチナの大義を棚上げにした上で両国関係の全面的正常化へと交渉を方向づけている。

ヨルダンとその人民の利益とへの多くの危険に対し、兄弟的ヨルダン人民とその民族運動が対決を示しているように、われらがパレスチナ人民も、これと闘い、この合意がパレスチナの正当な権利を無視しているばかりか、その闘いと民族的熱望をも抹消せんとする拒否を示さざるをえない。それゆえ、四組織は、郷土内外のパレスチナ人民大衆と兄弟的ヨルダン人民大衆、そしてわれらがアラブの諸国民に、この合意と対決し、葬り去るよう訴える。合意は、マドリッド文書に従つた現在の交渉過程がもたらした、民族的背信にも至りうる破壊的結果を明瞭に体現しており、この抑圧的文書に従つたパレスチナ交渉団の交渉参加が重大な打撃をわれらが人民と大義に与えたばかりか、アラブ諸国に口実を与え、これら諸国がわれらが民族権利を代償に、イスラエルとの問題解決、関係正常化を競い合う道をも固めてしまった。

参加者は、パレスチナ交渉団がヨルダンとの合同代表団の一部として交渉を継続しているなかでの合意発表であることに注目した。この交渉団は、チュニスにいる「有力指導者」からの指示の威を借り、イスラエルの占領地からの撤退義務を棚上げにしたまま、行政的自治計画の詳細を討議する作業委員会の形成を受諾したのみならず、自治行政のためパレスチナ人の米国

の後、イスラエルは前年にはわずか三〇〇〇万ドルだった軍事援助を、五億四五〇〇万ドルも受けとった。七六年にはキッシンジャーによるシナイの兵力引き離し協定の後、イスラエルは、前年の三億ドルに対し、無償供与八億五〇〇〇万ドルを含む一五億ドルの軍事援助を受けとった。七九年のカーターによるキャンプ・デービッド協定の後には、前年一〇億ドルだった軍事援助を、無償供与一三億ドルを含む四〇億ドルも受けとった。八三年、シュルツによるレバノン協定の後、レバノンからの撤退まで凍結するとしていたF-一六の引き渡しを受けた。

四八年の建国以来、イスラエルは米国とアラブの間にクサビを打ちこむことに成功を重ねてきた。米国は、くり返し、イスラエルに欺かれてきた。英仏と密謀した対エジプト開戦、秘密裏の核開発、米艦リバティへの攻撃などがあるが、誰も注意を払わなかつた。テレビが暴露することも、上院議員が指弾することも、ピュー

リツツア賞を渴望する記者がレポートするこもなかつた。注意を払つたのは貧しいパレスチナ人だけだつた。彼らは、いかなるアラブ政黨の秘密も、たとえそれが米国の利益を損う結果にならうとも、直ちにイスラエルの手にわたること、公職にあるどんな人間も、政治家も、たび「反イスラエル」と疑われば再選はおぼつかなくなることに気づいていた。

とはいへ、米国の軍事・経済援助は、イスラエル經濟の確立も安定化もできなかつた。中東に平和をもたらすこともできず、ただ緊張を増大させた。米国の援助は、国連決議や米政権の政策の束縛へのイスラエルのたび重なる拒否の主要な根拠と、今やみなされている。

八二年六月二八日付ワシントン・ポスト紙は、次のように指摘した。「レバノンに打ち込まれ、数千の民間人、女性や幼児の犠牲者を生んだのは、米国の戦闘機、ミサイルであり、戦車だつた。防衛用という名目で米国が供給した兵器が、イスラエルにとつて何の脅威でもない無辜の人々の虐殺に用いられているという事實に、いつの時点ですかわれわれは対処しなければならなくなるだらう」

現在、イスラエルは厳しい經濟危機の渦中にあつた。国民一人当たりにすると世界一の对外債務率をかかえ、インフレ率も世界最高の一つである。政治面でもパレスチナ問題、レバノン侵略、占領地での入植政策が、イスラエル国民の間に苦々しい思いをつくりだしている。それ以上に重要なのは、アラブ領土の占領の説明に用いら

イステエル軍、情報リーケで大騒ぎ

卷之三

第四に 中東問題の公正な解決を求める国際的、国内的圧力に対応する、イスラエルの拒否による援助である。これは米国の対イスラエル援助の最も重要なもので、イスラエル—アラブ対立の平和的解決を遅らせ、イスラエルに開戦、占領、パレスチナ人弾圧の手段を与えていた。米国は、イスラエルがすべての和平構想、解決案を拒否しているにもかかわらず、将来状況を考慮するとのイスラエルの口約束で満足し、イスラエルは、米国の軍事・経済援助の実質的増加をひきだした。七一年、ロジャース計画の後、イスラエルは前年にはわずか三〇〇〇万ドルだった軍事援助を、五億四五〇〇万ドルも受けとった。七六年にはキッシンジャーによるシナイの兵力引き離し協定の後、イスラエルは、前年の三億ドルに対し、無償供与八億五〇〇〇万ドルを含む一五億ドルの軍事援助を受けとった。七九年のカーターによるキャンプ・デービッド協定の後には、前年一〇億ドルだった軍事援助を、無償供与一三億ドルを含む四〇億ドルも受けとった。八三年、シュルツによるレバノン協定の後、レバノンからの撤退まで凍結するとしていたF—一六の引き渡しを受けた。

リツツア賞を渴望する記者がレポートするこもなかつた。注意を払つたのは貧しいパレスチナ人だけだつた。彼らは、いかなるアラブ政権の秘密も、たとえそれが米国の利益を損う結果にならうとも、直ちにイスラエルの手にわたること、公職にあるどんな人間も、政治家も、たび「反イスラエル」と疑われれば再選はおぼつかなくなることに気づいていた。

とはいへ、米国の軍事・経済援助は、イスラエル経済の確立も安定化もできなかつた。中東に平和をもたらすことができず、ただ緊張を増大させた。米国の援助は、国連決議や米政権の政策の束縛へのイスラエルのたび重なる拒否の主要な根拠と、今やみなされている。

八二年六月二一八日付ワシントン・ポスト紙は、次のように指摘した。「レバノンに打ち込まれ、数千の民間人、女性や幼児の犠牲者を生んだのは、米国の戦闘機、ミサイルであり、戦車だつた。防衛用という名目で米国が供給した兵器が、イスラエルにとって何の脅威でもない無辜の人々の虐殺に用いられているという事実に、いつの時点でかわれわれは対処しなければならなくなるだろう」

A.F.P.、九二年一月一四日

1993年1月31日 第85号 月刊 中東レポート

DFLP、PASF、PLFは、こうした危険きわまりない決議に政治的力バーを与えることはしない。それゆえ、四組織は一月二一日のパレスチナ指導者会議のボイコットを決定した。四組織は、PLOをパレスチナ人民の唯一正当な代表とみなしているし、その統一とその諸機関の信頼性に深くかかわること、と同時に、民族的統一は民族共通の要因に立ち返り、民族的総意である憲章を尊重することのなかでこそなされることを強調する。ワシントン—マドリッドの「和平過程」が到達した危険きわまりない諸点は、チュニスに存在する有力指導者たちとその交渉団が交渉からの即時撤収を宣言し、パレスチナのすべてのイスラム的民族的諸勢力が参加する包括的な民族的討議へと道を開き、もって、PLOの旗の下の民族的統一を支え、国際的に正当かつ合法的な諸決議を適用し、われらが人民の帰還、自決、独立国家樹立などの諸権利を達成するため、インティファーダと闘いを継続すべきことを明確にしている。

DFLP、PASF、PLFは、こうした危険きわまりない決議に政治的カバーを与えることはしない。それゆえ、四組織は一月二一日のパレスチナ指導者会議のボイコットを決定した。

四組織は、PLOをパレスチナ人民の唯一正当な代表とみなしているし、その統一とその諸機関の信頼性に深くかかわること、同時に、民族的統一は民族共通の要因に立ち返り、民族的総意である憲章を尊重することのなかでこそなされることを強調する。ワシントン—マドリッドの「和平過程」が到達した危険きわまりない諸点は、チュニスに存在する有力指導者たちとその交渉団が交渉からの即時撤収を宣言し、パレスチナのすべてのイスラム的民族的諸勢力が参加する包括的な民族的討議へと道を開き、もって、PLOの旗の下の民族的統一を支え、国際的に正当かつ合法的な諸決議を適用し、われらが人民の帰還、自決、独立国家樹立などの諸権利を達成するため、インティファーダと闘いを継続すべきことを明確にしている。

れ、加えて、イスラエルの援助への依存の増大から、完全な無償供与になるという。報告は、いくつかの重要な事実や考え方にも触れ、イスラエルの経済と軍事力に対する援助の影響についても、初めて公けにした。歴代米政権は、四九年以來七五〇億ドルを軍事・経済援助の形でイスラエルに与えており、その半分以上が無償供与である。七三年戦争以降では、二五〇億ドル、内一四〇億ドルが無償供与であり、軍事援助に限つてみれば、四八年以來、総額二〇〇億ドルとなる。小人口のイスラエルは米国の対外援助の約三五パーセントを受けたり、対ラテン・アメリカ援助を三分の一、対アフリカ援助の総額を、それぞれ上回つている。個人、民間機関の援助、そして現時点で年間一〇億ドルを上回るイスラエル国債の売却など、政府援助以外にもある。あまり知られてはないが、イスラエルの産業・貿易振興、外貨獲得にとって重要な援助がある。イスラエルにおける外資の約五五.パーCENTを占める米国直接投資、米国輸出入銀行からのイスラエル

ことになる。間接援助を含めると年間一人当たり二〇〇〇ドルを超える、この額は、アラブ各国を通した一人当たりの平均国民所得を上回る。

米国の対イスラエル援助の果たす役割は、大きく四つにわけられる。

第一に、八一年に調印された戦略協力協定で、これは、米国の軍事援助の多大な部分を、イスラエルが自国の軍事産業、特にメルカバ戦車やレビ戦闘機といった最新兵器の開発に使用でき、米国政府とその軍産複合体にイスラエル製スベア・バーツや機器の購入を義務づけ、さらには米国援助の他の受けとり国によるイスラエル丘器や労務などの購入をも認めている。これは半島の軍需産業に不利益をもたらし、伝統的な丘器市場であったラテン・アメリカをイスラエルに奪われ、失業者数のいっそうの増加をもたらした。一方、海外市場の開拓を助けられたイスラエルでは、今や輸出の四〇パーセントを兵器が占め、ラテン・アメリカ、アフリカ、アジアでのイスラエルの威信と影響力の強化となつてゐる。米国の納税者は、イスラエルの生活水準の向上、その戦争、占領、そして占領地で進められている入植のために税を納めている。

第二に、米国の援助は、イスラエルの対外債務の緩和に使われている。援助は兵器購入費であり、もあてられ、イスラエルの軍事費圧力をやわらげ、他への歳出を可能としている。

第三に、高い生活水準の維持への貢献で、それは、大量のユダヤ移民をひきつけるものとなつてゐる。

ことになる。間接援助を含めると年間一人当たり二〇〇〇ドルを超える額は、アラブ各国を通した一人当たりの平均国民所得を上回る。

米国の対イスラエル援助の果たす役割は、さく四つにわけられる。

第一に、八一年に調印された戦略協力協定で、これは、米国の軍事援助の多大な部分を、イスラエルが自國の軍事産業、特にメルカバ戦車やレビ戦闘機といった最新兵器の開発に使用でき、米国政府とその軍産複合体にイスラエル製スパーズ・ペーツや機器の購入を義務づけ、さらには米国援助の他の受けとり国によるイスラエル兵器や労務などの購入をも認めている。これは半島の軍需産業に不利益をもたらし、伝統的な丘陵市場であったラテン・アメリカをイスラエルに奪われ、失業者数のいっそうの増加をもたらした。一方、海外市場の開拓を助けられたイスラエルでは、今や輸出の四〇パーセントを兵器が占め、ラテン・アメリカ、アフリカ、アジアでのイスラエルの威信と影響力の強化となつてゐる。米国の納税者は、イスラエルの生活水準の向上、その戦争、占領、そして占領地で進められている入植のために税を納めている。

第二に、米国の援助は、イスラエルの対外債務の緩和に使われている。援助は兵器購入費にもあてられ、イスラエルの軍事費圧力をやわらげ、他への歳出を可能としている。

第三に、高い生活水準の維持への貢献であり、それは、大量のユダヤ移民をひきつけるものとなつてゐる。

・第七次交渉、進展なしで終了。パ代表団、イスラエルは西岸とガザを分断し、自決を阻止しようとしていると非難。

・南部、レジスタンスの攻撃四つ、SLA一人負傷。

一月二一日

・パ 人 権 情 報 セ ン タ ー、特務が二人を逮捕し、手錠でつないだ後、射殺した、と非難。

・テ ル ア ピ ブ 地 区、車爆弾発見。

一月二二日

・マ ジ ャ リ、合意の記述に落し穴（本文参照）。

一月二三日

・エ ル サ レ ヘ、女性がナイフで攻撃。他方テルアビブ・キリアト・シャモーナのバスに四つの爆弾発見。

・西 岸、入植地への一号トンネルが開通。

一月二四日

・西 岸、人民の鬭い、一人射殺される。

・ハ ワ ト メ、交渉の再検討、パレスチナの大義を支援するアラブの連帯再確立を。

・ア サ ド、平和は長期の困難な討議を要し、サミットでは遂行しえない。サダトの暗殺を引用しつつ、ゴランの一インチとて妥協はしない。シリア人の誰もが心の深くで祖国の一部を譲渡する者は誰であれ裏切り者だと考えてゐる。

マイアミ・ヘラルド、ナスマツラー暗殺計画

・南部、レジスタンスの攻撃。

一月二五日

・アラファート、パレスチナは建国の権利を有す。ラビンはシャミールと同じ。国連の保護を。

・ミッテラン、イスラエルはPLOと対話を。

PLOは人民の代表であり、唯一のパートナー。パレスチナは同様に建国の権利を有する。

一月二六日

・ガザ、人民の鬪い、一人死亡五人負傷。

・アル・ハヤト紙、シリアが化學兵器云々はイスラエルと西側の支援者による作り話。

一月二七日

・各地のパレスチナ人、一〇組織呼びかけの国連分割案記念のゼネスト、デモなど。西岸、ベブロンで一人射殺され、ガザでは、二人負傷。

一月二八日

・シャフィイ、イスラエルの提案は受け入れがたい限定的な自治でしかない。

一月二九日

・ガザ、レジスタンスの作戦。安全地帯で四つ

の地雷発見された。

一月三〇日

・エルサレム、ユダヤ人への攻撃。他方、ヨルダン川越えの銃撃でイスラエル兵負傷。

一二月一日

・ガザ、人民の鬪い、一人死亡三〇人以上が負傷。

・ベイルート、キリスト教レジスタンス名の声明、南部のユダヤの占領に対する文化革命を。

一 二月三日 南部、安全地帯へロケット攻撃。

・ 被占領地、シンベトは和平反対派を重点的に（四五〇人以上）逮捕している。

・ アッディヤール紙、イスラエルがシリア等の核施設爆撃計画―米国が待つた（本文参照）。

・ 南部、レジスタンスの攻撃二つ。

一 二月四日

・ 前線諸国外相会議（四～五日）、各国はパレスチナ側に出席を説得（本文参照）。

一 二月五日

・ ガザ、軍と特務がP.F活動家を急襲、人民が反撃。一人死亡三〇人負傷（学校へも乱射したため被害拡大）。

一 二月六日

・ アラファト、インティファーダは「勝利までエルサレムの解放まで続く」。

・ パレスチナ、イスラミック・ジャハード呼びかけのゼネスト（イ・ジハードは六日の闘いをインティファーダの開始とみなしている）。

・ 南部、レジスタンスの攻撃。

一 二月七日

・ ガザ、軍ジープへの攻撃、三兵士を射殺。

・ 交渉再開、パレスチナ代表団は米国の介入を要請―アラブ諸国は否定的（本文参照）。

・ ラビン、九三年には全交渉者とでなくとも、いくつかとは合意に達する。提案はテリトリーのペ人がある種のパレスチナ〈国〉と感じるもの。

チニスでのアブ・ジハードの暗殺や七六年のエンテベ空港での人質救出作戦とも結びつきがある、と同紙は述べている。

イスラエル軍のスポーツマンは、こうした報道へのコメントを拒否しているが、軍筋はこのリークは「軍に回復不可能なダメージ」をもたらしたと言っている。

参謀総長バラクは調査委員会を組織したが、そこでは特別コマンド部隊の司令官レビ二将軍に同事故の「間接的な責任」があるとしている。だが、彼は単独で責任をとることを拒否し、将軍たちの間での致命的ともいえる争いが発生しているとイスラエルの報道は伝えている。

リークに次ぐリークで、ミサイルが兵たちの集團に向けて発射され、五人が死亡し六人が負傷した同リハーサルに軍の要人すべてが参列していくことが明らかになつた。バラクは、副官のシャハクや軍情報部の司令官サグイらとともに列席していた。憲兵は、事故原因の追求のために、彼らすべてを尋問するであろう。

ハーレツ紙は、二十四日、「参謀部の間で、サゲイ将軍派とレビ二将軍派の戦闘が展開され、お互いに事故の責任をなすり合つてゐる。まったく不愉快な雰囲気」と報道した。レビ二は調査期間中は軍から暇をとることが了承された。首相かつ軍相のラビンは、さらなるリーク防止のため、いかなる軍高官であれ報道陣に話したこと疑わしき者は嘘発見機にかけると警告した。彼は報道陣や政治家が責任追及から大爆発導く「ヒステリー状況にある」と非難したが、

重要日誌

軍の検閲制度もまた無傷ではないだろう。
(編注) 1、ナスマラフー師は、計画は「シオニスト搾取国家の真に侵略的な本質の反映」であり、自分は「そうした報道に驚かない」し、「陰謀はわれわれを強くするだけ」と答えた。
2、イスラエルは、マイアミ・ヘラルドとガーディアンの二人の記者の記者証剥脱、他の四人の喚問を行つた。3、リーチク自身が軍内部の矛盾からと言われ、一時は責任者探しの報道合戦に参加していたイスラエルの報道機関は「公式報道」だけに戻つた。が、一二月四日には、別件でシンベトの長官が解任され、強力な軍事機構の矛盾の深刻さを示している。

<p>重 要 日 誌</p> <p>一一月一一日 一一月一二日 一一月一三日 一一月一四日 一一月一五日 一一月一六日 一一月一七日 一一月一八日 一一月一九日 一一月二〇日</p>	<p>一一月一一日 一一月一二日 一一月一三日 一一月一四日 一一月一五日 一一月一六日 一一月一七日 一一月一八日 一一月一九日 一一月二〇日</p>
---	--

攻撃を仕掛けたイスラエル軍は撃退され、兵士一死亡二負傷。国連軍のペパール部隊が巻き込まれ、一人死亡三人負傷。

一一月一三日
西岸、人民の鬪い、一人が死亡、三人が負傷。

一一月一四日
西岸、女性がイスラエル兵へのナイフ攻撃。ナブルスでは人民の鬪い、一人死亡二人負傷。

ナスマッラー、イスラエルの軍事増強はコケ威し。レジスタンスは持久的に展開される。

一一月一五日
パレスチナ国家宣言四周年、各地でデモ。エルサレムのアラビア語紙はすべてアラファートの写真を掲げた。一四人が負傷、一三名が逮捕。

ペレス、エジプト訪問、パレスチナ人とは共同管理などを、アサド大統領は直接討議を。

南部、イスラエル軍部分撤退。他方で、ヘリルによる攻撃。

一一月一六日
東エルサレム、雜踏の中に手投げ弾、一人死亡一二人負傷。ユダヤ極右の仕業。しかし、多くのパレスチナ人が逮捕される。

アラブ、和平過程はラビンが妨害、シャミールと同様のことを繰り返している。

一一月一七日
アラブ、イスラエル側は完全撤退と正当で永続的な和平の準備ができるいない。

南部、レジスタンス攻撃（一ギリラ死亡）と砲撃、砲撃戦。

一一月一八日

- ・ガザ、封鎖下で人民の鬪い。西岸、ガザで各一人死亡。他方、イスラエル人権運動が、ラビンになってからもなんら改善されてなく、逆に死者は二〇%増加（本文参照）。
- ・南部、地雷攻撃やロケット攻撃、イスラエル兵四人が入院。

一二月九日 インティファーダ六年目に

- ・被占領地、ゼネスト。シャフィイ、インティファーダは占領を全面的に拒否するという意志、決意の表明であり、建国実現まで続く。
- ・またレバノンなどで、ゼネストや連帯集会。交渉でも、アラブ側は連帯表明のボイコット。
- ・南部、レジスタンスの攻撃三つ、SLAの四人が負傷。

一二月一〇日

- ・エルサレム、車爆弾発見。ジェニンでは、武装パ人と射ち合い、パレスチナ人が隠れた家にミサイルを射ちこむ。兵士四人負傷。
- ・シヤマス、イスラエルは南部占領の正当化に失敗。五・一七協定は決して繰り返さない。

迎春
一九九三年正月

米軍の湾岸戦争の
再開の報を聞き
中東和平の前途を
案ずるばかり

東京編集一同



الآن على بوابة التحرير
نداءات الاعفاضة
بيان الاستقلال

三月刊行・話の特集

五三〇リッダ

日本赤軍・編著

日本赤軍 20周年記念出版 戦争20周年記念出版

※日本赤軍メンバーによる
座談会、リッダ闘争の経緯
戦で亡くなった奥平剛士
さんの遺書、生き残った同
本公三さんのインタビュー、
日本赤軍、および日本赤軍
メンバーが20年間に発表
してきた文書などを一挙に
収録した本書は、リッダ闘
争、ハイジャック闘争、大使
館占拠同志団還閣争と幾
多の闘争で知られる日本
赤軍の、20余年間にわた
る活動の集大成とも言える
貴重な書である。

近日ユニタ書舗より翻訳出版